

□ アナリスト週間相場予想

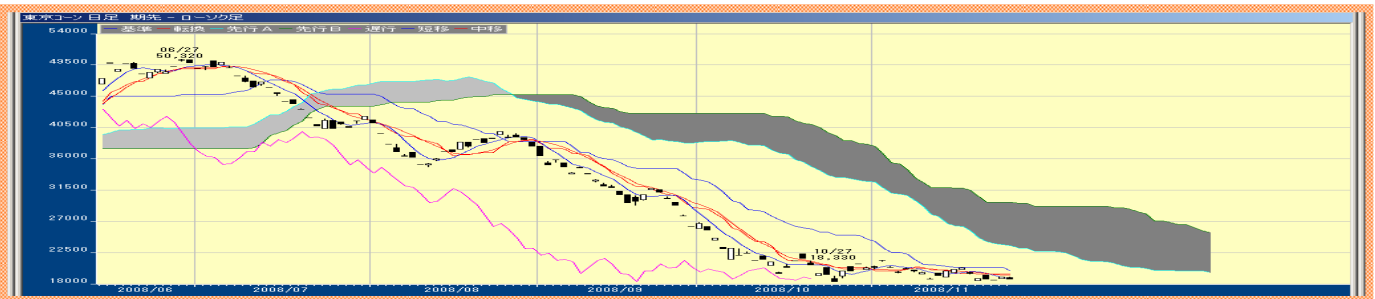
	 コーン Corn	 大豆 Soybean
江崎		
西		

Pick up News

〔注目スケジュール〕

- 12/1 米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告
米農務省 (USDA) 週間輸出検証高
- 4 USDA週間輸出成約高
- 5 CFTC建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



チャートは東京コーンに一目均衡表を被せたものである。日足はここ1週間ほぼ横這いで推移しており取引量も減少している。このまま横這いの展開が来週の週報まで続く可能性もあるがここで日足以外の指標に注目してみる。一目均衡表の三役(日足一雲・転換一基準・運行一日足のそれぞれのペア)は全て逆転(デッドクロス)状態。しかしながらここ1週間程度で転換一基準ペアは基準線がその水準を切り下げる事で収束しており、そろそろ動意付く日柄にさしかかる可能性はある。チャートには表示していないが、14本RSIも緩やかに回復しており11/28前引け現在で42.35、もう売られすぎの水準は脱していると判断できるだろう。仮に動意付いた場合は”トレンドは継続する”の基本を守って下降トレンドを形成するのではないかと当方は感じる。もしも18000円をブレイクダウンする動きが出れば追従し売り参入の準備はしておきたい。

一般大豆に関しては殆どコーンと同じチャートであるが、唯一一目均衡表の転換一基準ペアだけがかろうじて好転している。コーンの売り玉が担がれるような展開が示現してしまった場合等にヘッジ買い銘柄として有効だろう。(11/28前引け現在)

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

穀物相場はもみ合い商状にありながら、大豆に有利な展開が続いている。この違いは米国の輸出事情に現れており、コーンが競争力を無くしつつある中で、大豆は中国の買い付けに大きな期待が寄せられているといった状況である。海上運賃コストの低下で、中国は輸入需要を米国産大豆へと振り向けている。その当事国が景気対策や利下げに動いていることも、市場心理を好転させている。飼料や搾油需要は工業品ほどには景気の影響を受けないとの見方も出ている。このトレンドは当面は覆されそうにない。需給相場へと移行した今、主な手掛かりは米国の輸出動向となる。米農務省が毎月発表している需給報告で示される需要予測が達成できるかどうか、それが重要となる。現況では、コーンに関して下方修正リスクが高まっているというのが市場筋の見方である。毎週発表される週間輸出検証高や、成約高がこの判断材料として重要性を増す点に留意しておきたい。

穀物のファンダメンタルズは上記通りだが、残念なことにまだ外部要因(株式市場、原油相場、為替など)主導の展開が続いている。商品市場そのものが一つとして見られている間は、独自の手掛かりをもとに売買しても良い成果に結びつくとは限らない。市場関係者の間では、穀物相場がこうした外部要因から解放されて最初に動き出すとみる向きも出始めているが、これは結果待ちと言うしかない。なお、バルチック・ドライ・インデックス(BDI)が安値更新しているが、弱材料ではあるにせよ、下値にも限度ありとの見方で影響は今のところ軽微に留まっている。トレンドがはっきりせず狙いも定めにくいいため、今回も大豆買い・コーン売りを念頭にストラドルによる攻めを検討したい。

◆添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。